

雲仙火山における地磁気の観測\*

Geomagnetic Observations at  
Unzen Volcano

京都大学理学部附属火山研究施設  
Aso Volcanological Laboratory,  
Faculty of Science, Kyoto University

地磁気全磁力変化

第1図は、1994年1月から10月までの普賢岳山頂部における地点N3, N4, W0, W1, W2およびW3の地磁気全磁力変化である。プロトン磁力計による00時から3時59分までの5分ごとの測定値を平均して夜間平均値とし、その値から火山研究施設における同時刻の測定値を減じて単純差を求め、これを日値としたものである。

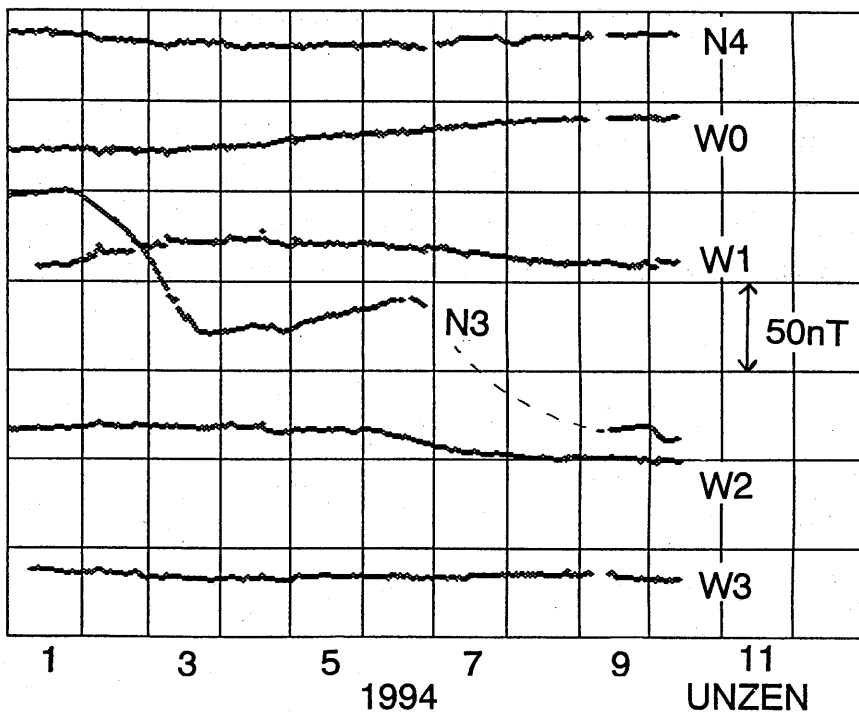
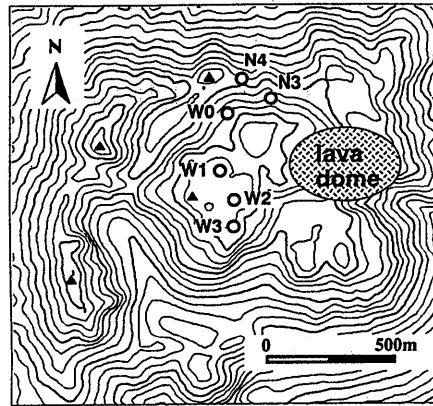
地点N3の地磁気全磁力は、1994年2～3月と7～8月に大きく減少した。これは、ドーム北西部の押し出しに伴う地形変動の影響と考えられる。

ドームからやや離れた地点N4およびW3では、地磁気変化は少ない。

1994年5～6月ごろから、地点W0の地磁気と、地点W1およびW2のそれに相補的な変化がみられる。ドーム北西の噴気が発達した影響と考えられるが、山頂部での地殻変動が継続しており、明確ではない。

---

\* Received 8 Dec., 1994



第 1 図 雲仙岳山頂部におけるプロトン磁力計による地磁気全磁力変化  
 (基準点は京都大学火山研究施設(熊本阿蘇)で、夜間00時から03時59分までの値を平均し、単純差で日差を求めている)(1994年1~10月)

Fig. 1 Geomagnetic total intensity observed at stations near the Jigoku-ato crater on Unzen Volcano during the period from January to October in 1994.

Data measured at every 5 minutes were averaged from 00:00 to 03:59 and reduced to those at Aso Volcanological Laboratory (about 73 km east).